

絶滅危惧類 カエデ科

シバタカエデ

Acer miyabei Maxim. var. *shibatae* (Nakai) H. Hara

全国カテゴリー；絶滅危惧 B類

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少

【形態】 落葉高木。葉柄は長さ4～20cm。葉身はほぼ五角形、長さ5～12cmで3～5中裂し、基部は心形、裂片はさらに羽状に1～2浅裂し、裂片の先は円形ないし鈍形、細鋸歯はなく、両面に短立毛、縁に短毛を密生する。花は雄花と両性花があり、長さ6～8cmの複総状花序に10個内外がつく。分果は長さ約3cmで無毛、果翼は水平に開く。県内に多いイタヤカエデ類は葉の表面に毛がなく、葉の裂片はふつう全縁で鋭頭である。母変種のクロビイタヤは分果に密毛がある。

【分布】 日本固有で東北(福島)、関東(栃木、群馬)、中部(長野)に生える。

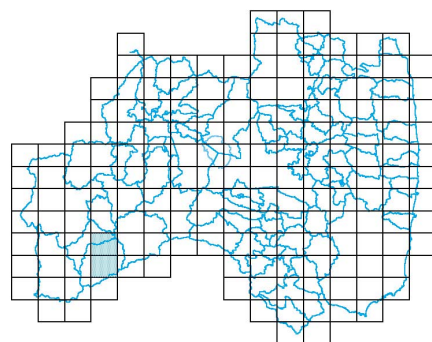
【県内の分布、生育状況】 会津の尾瀬および館岩村の数カ所で報告があるのみである(馬場 1990)。

【生育に影響を与えている要因】 産地局限

【特記事項】 現存する個体群の生育環境を良好に維持することが望ましい。クロビイタヤとは毛の有無以外に区別点がなく、しばしば同所に生えることから、変種での区別が適当か再検討する必要があると思われる。

【主要文献】

馬場 篤．1990．福島県新産植物と希産植物の新産地(5)．フロラ福島8：4．



絶滅危惧類 ニシキギ科

アンドンマユミ

Euonymus oligospermus Ohwi

全国カテゴリー；絶滅危惧 A類

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少

【形態】 枝には黒色楕円形のこぶ状突起が密生する。葉身は薄く、長楕円形、長さ5～11cm、幅1.5～4.5cm、基部は円形ないしくさび形、鋭先頭、縁に細鋸歯があり、表面中脈に短毛を散生、裏面脈上には葉柄とともに短軟毛が多い。葉柄は長さ3～8mm。花序は下方の1～2対の葉腋に生じる。花は4数性、がく裂片は半円形、径約2mm。雄しべは4本、花盤の上につき、葯は2室、花糸はごく短い。朔果は狭倒三角形、赤熟し、4翼があり、長さ約1.5cm、径約1cm、先は凹入する。種子は赤色の仮種皮に包まれる。

【分布】 本州(福島県檜枝岐村)に自生する。

【県内の分布、生育状況】 檜枝岐村に産する。

【生育に影響を与えている要因】 森林伐採、森林開発

【特記事項】 生育地の保護が望ましい。